

「私のプロジェクトと夢」を読んで

宮村新一

筑波フォーラム編集委員

生命環境科学研究科構造生物科学専攻准教授

（みやむら しんいち／植物形態学・細胞学）

「私のプロジェクトと夢」が始まって3号目になりますが、本号でも学内の多彩な研究・教育についての話題が盛りだくさんです。福田先生と菊池先生の植物の話題2題では、動物のような移動手段をもたない植物が光やストレスなどの環境に応答するしくみとその研究成果の活用について紹介していただきました。

阿江先生の「体育・スポーツ科学の研究成果が実践および指導に有効に活用されているとはいえない」という話は、北京オリンピックも近づいてスポーツ科学の話題がテレビなどでも取り上げられることが多いのに意外な感じがしました。

坂根先生の医療技術トレーニングラボラトリーの記事では、技術の進歩が早い医療分野での人材教育、新医療技術開発と臨床への応用が紹介されています。医師不足などの問題解決への重要な取り組みと見えます。インターネットや携帯電話の子供達への影響がニュースでも話題になっていますが、鈴木先生のメディアの影響についての

研究は子供達の将来を考えると大事なことだと思えました。津田先生の英語支配論、日頃、英語には苦勞していますので非常に共感できました。

木村先生の記事では、筑波大学が多くの附属学校を持ち学問志向と実践志向の両方を併せ持つ伝統を生かした教育に取り組んでいることがよく分かりました。「教育の本質の一つは、あの時のあの言葉が忘れられないという強く短い一言と一瞬の眼差しにあるのかもしれない」という日高先生の言葉は印象的でした。最近、教員がますます忙しくなってきたように思えますが、そんなときにこそ「利便性や効率化が求められる時代において『走る』スピードは人間回帰に最も適したスピードであるように思う」という鍋倉先生の言葉には説得力があるように思います。あらためて学内の研究教育分野の多様性を認識しました。